

旭川市立近文小学校

指定年度：H30～
児童数：421名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 教育理念や経営方針の浸透～教職員や保護者、地域住民との目標の共有化～

学校の教育目標の実現に向け、中学校と連携し、小中9年間のビジョンを明確にしたグランドデザインを作成した。研修や会議を通してビジョンを教職員で共通理解を図るとともに、学校だよりや学校ホームページにおいて公表し、積極的に保護者や地域住民と共有を図った。



(小中9年間のビジョンを明確にしたグランドデザイン)

② 協働意識の高揚～校務分掌を工夫した組織体制の確立～

学力向上の取組については、資質・能力の育成を意識した教育活動を教員の共通理解の下で推進することができるよう、定例の校内研修に加え、グループワークやメンター研修など職員の課題意識に応じて話し合う場を設定した。

学校課題の解決については、各分掌間の連携を強化し、迅速に対応できるよう、議題に応じて、運営委員会や各部長会議の参加者を拡大するなどの工夫を行ったり、短時間の会議や研修を適宜設定したりすることにより、教員間の情報共有や意見交流ができる体制を確立した。

これらの取組により、各学年や分掌組織が目標に向かって連携・連動して取り組もうとする意識が高まった。



(教員間の情報共有や意見交流ができる体制の確立)

③ 人材育成～教員の経験年数等に応じた育成～

教員が主体的に学び合う環境づくりを目指し、若手を軸とした人材育成体制を構築した。

日常的な巡回指導や授業研究、計画的な放課後のテーマ別研修、メンター方式による研修を計画的に行うことにより、ベテランが若手をサポートするだけでなく、全教員が意見を出し合い、共に学ぶ関係を確立することができた。

また、校長は、メンター研修において率先して講師となり、悩みを抱える若手に的確なアドバイスを行うとともに、面談や日常の対話を積極的に行い、教員との意思疎通の深化に努めた。



(校長が講師となったメンター研修)

2 取組の成果と課題 (□：成果 ■：課題)

□小中9年間を見通したビジョンを設定したことにより、教員が育成すべき資質・能力をより意識した授業を行い、安定した学力を維持している。また、学校の取組についての理解が得られたことにより、学校運営協議会の設置に向けた地域住民との連携がしやすくなった。

□運営委員会や各部長会議の持ち方の見直しを行ったことにより、校務分掌間の有機的な連携が図られた。

■長期的な課題に対応するためのプロジェクトチームを設置し、教員が一層、主体的に活動できる体制を確立する必要がある。

